県都の玄関口 甲府駅南口を再整備します

昭和61年のかいじ国体開催以来、大きな改修が行われていない甲府駅南口一帯。県都の顔にふさわしい景観づくりと、活力ある街づくりを目指して、県と甲府市が検討を進めてきた、駅前広場と平和通りの再整備実施計画がまとまりました。今年11月には駅前広場の工事を一部着工する予定です。

歩行者に優しく、緑豊かな憩いの空間となる、甲府駅南口の将来の姿を紹介します。

三つの空間づくり

1 歩行者優先の開放的空間

駅前に広さ約2千平方メートルの正面広場を整備。駅から真っすぐ平和通りへと向かうことができる開放的な空間が広がります。段差やきつい勾配は、歩きやすく改善します。

また、一般車とバス・タクシーなどの公共交通を分離することで、分かりやすく安全な交通の流れを確保します。

2 景観に配慮した緑豊かな空間

歩行空間に植栽などを行い、緑豊かな空間を演出します。洗練されたデザインの照明やベンチなども設置していきます。

また、駐輪場を地下に設けるとともに、条例などの制定により、自転車の放置防止が図られます。

南北自由通路出口から正面広場を望む

3 憩いとにぎわいの空間

駅利用者の憩いの場となる正面広場では、イベントなども開催できます。駅前に人が集まり、にぎわいも生まれます。

平和通りは…

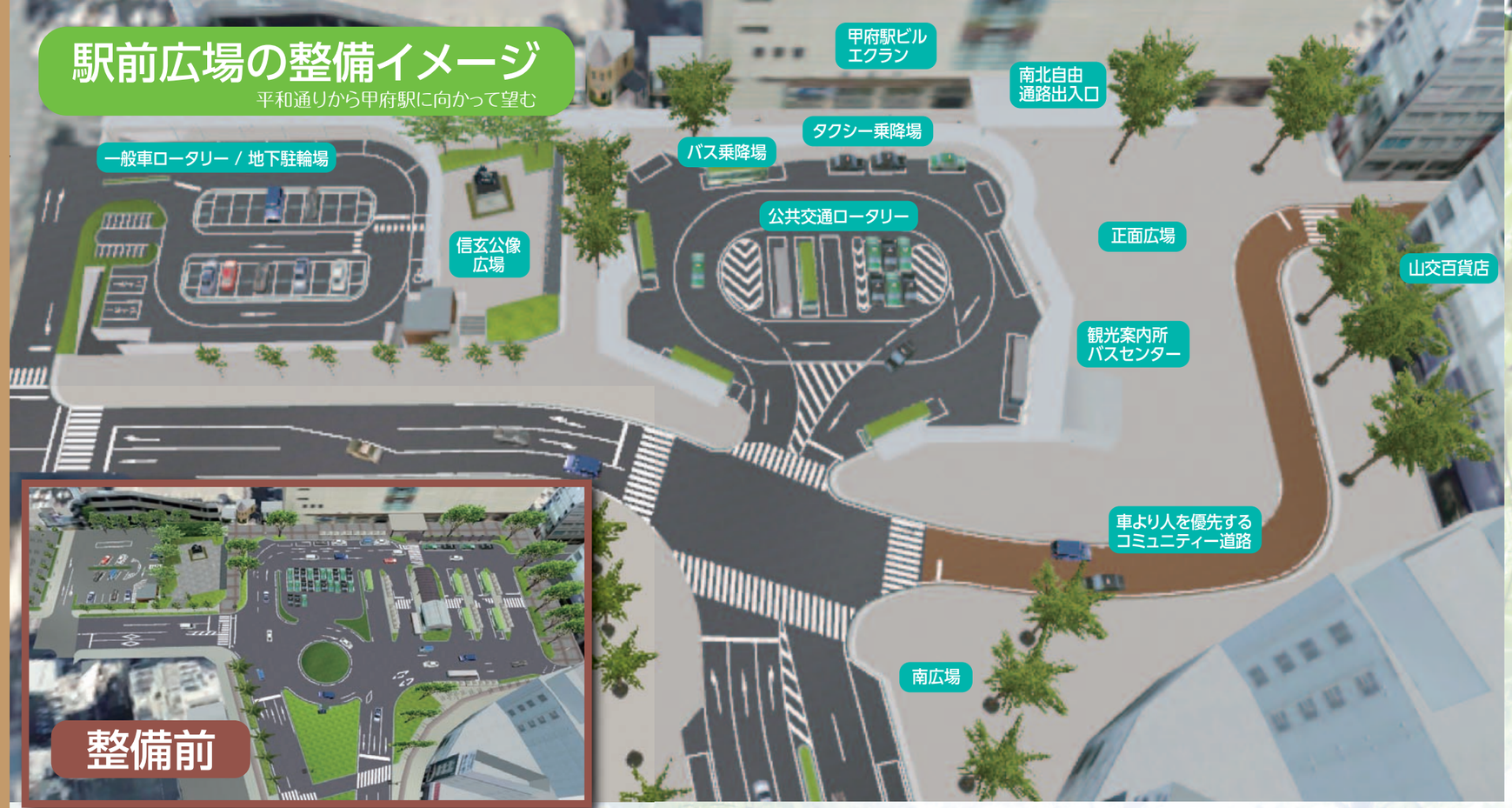
東側の老朽化したアーケードを撤去し、植樹を行うことで、開放的で緑豊かな空間を演出します。

また、自転車通行のスペースを設け、歩行者と自転車の安全を確保します。ユニバーサルデザインの考え方に基づき、県庁防災新館横の平和歩道橋を撤去するとともに、老朽化した道路付帯施設やサインなどの改修を行います。

甲府駅から平和通りを望む

駅前広場の整備イメージ

平和通りから甲府駅に向かって望む



写真で見る 甲府駅南口駅前広場の変遷

1903（明治36）年に開業した甲府駅。昭和30年代初めには県都の玄関口としての形が整い、1986（昭和61）年の「かいじ国体」の開催に合わせて現在の駅前広場が完成した。

明治36年6月、甲府駅開業。巨大な祝賀アーチには、初代甲府市長・若尾逸平が揮毫（きごう）した「祝開通」が掲げられた

戦後、運行を再開した山梨交通電車・通称「ボロ電」

昭和33年の甲府駅上空からの眺め。戦後13年を経過し、県都の玄関口としての形が整った

「かいじ国体」の開催に合わせ、昭和60年10月甲府駅ビル「エクラン」が完成（写真は現在の様子）

【問い合わせ先】都市計画課
TEL 055-223-1715　FAX 055-223-1724

甲府駅南口 実施計画　検索